# 会　議　録

| 教育長 | 事務局長 | 課長 | 課長補佐 | 係長 | 課員 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | |

平成３１年３月２０日

記録者:社会教育課　遠藤　晶子

| | |
|---|---|
| 日　時 | 平成３１年２月１９日（火）１４：００～１６：２０ |
| 場　所 | 釜戸公民館　第２研修室 |
| 件　名 | 平成３０年度　第６回社会教育委員会定例会 |
| 出席者 | 社会教育委員：有賀秀雄、小栗正敏、羽柴誠、安藤隆宏、酒井周文、安藤徳善、龍頭美雪、三浦晶子、永井研、吉田生子、吉村美信<br>釜戸公民館職員：平野幸彦（釜戸公民館館長）、足立由美（釜戸公民館総括主事）<br>中央公民館職員：足立弘文（中央公民館館長）<br>事務局：遠藤晶子（社会教育課課長補佐） |
| 議　題 | **１　開会の言葉（小栗正敏副代表より）**<br><br>**２　挨拶（有賀秀雄代表より）**<br>私たち社会教育委員は今年度、地域・学校・家庭の連携・協働の活動をどのようしていったらよいかについて研修を進めてきた。本日は実際に推進しておられる釜戸公民館を会場として、館長さんや総括主事さんのお話を聞き、釜戸小学校の吉村校長先生からもお話を聞く。研修をより深めることができると楽しみにしている。よろしくお願いしたい。<br>釜戸公民館は今年度文部科学省から表彰された。本日お話しいただく内容が、評価された内容であると思う。<br>委員の方々には、来月の定例会で来年度の方針を討議するので、本日の内容を資料とできるよう、研修していただきたい。<br><br>**３　研修　地域・学校・家庭の連携・協働による地域づくり～釜戸地区の取組から～**<br>（１）釜戸公民館の取組についての説明及び質疑応答〔司会：有賀秀雄代表〕<br>①平野館長より<br>・釜戸公民館の稚拙な取組が皆さんの参考になるとは考えていないが、こういう機会を「与えていただいた」と捉えている。発表後に、ご質問やご示唆をいただくことで、それを今後の肥やしにしていきたいと考えている。<br>②足立由美総括主事より<br>＜スライドショーとパワーポイント資料を用いて説明＞<br>③感想及び質疑応答<br>委員：自分の住んでいる地区でも盆踊りが行われているが、踊っているのは高齢者が殆どで、子どもが踊る姿はなかなか見られない。釜戸では、子どもたちが、夏休みのラジオ体操の後に地域の方に教えてもらって盆踊りを練習し、終わったら一緒にパン等を食べると |

のこと。こんなふうに、今ある活動に手を打っていることがすばらしいと思う。「かふぇみなくる＆てくてく釜戸ウォーキング」も、「歩く」という健康によいことに、地元の野菜という自然の恵み、そして手づくりパンが提供されるカフェも加わって、人が集まる。田舎のよさを活かし、今ある活動を組み合わせて来館者を増やしている。「ここに来るといいことがあるぞ！」と感じた人がいて、それが口づてで広まりどんどん人が来るようになったと考えられる。受賞された理由がよくわかった。「人が減った。」と嘆くだけでなく工夫して手を打つ必要性を学ばせていただいた。

委員：利用者数を見ると、32,000 人。人口は 2,800 人。単純計算で人口の 11.7 倍の人が利用していることになる。外部の利用もあるのだろうけれど、利用者の増え方がすごいと思う。これには「来ないなら行っちゃうおう！」という出前講座の効果が出ていると思う。行きたいけど行く手段がないという方はきっといる。それに対応して解決が図られていることの成果だと思う。

委員：今話が出た「『公民館へ行く』から『公民館が行く』へ。」考え方を変えたというのは、行きたくても行けないという高齢者に配慮したもので、主事さんは大変だと思うが、すばらしい取組だと思う。

委員:うらやましいと思うのは「青龍」という子ども太鼓である。これをつくられ、実際に子どもを集めて活動しておられる。日吉の文化祭にも来てもらった。素晴らしかった。地域間の交流としても地域づくりとしても最高だと思った。

一つ質問がある。「春の公民館祭り」について詳しく中身を教えてほしい。

総括主事：もともとは公民館講座から生まれた自主グループが舞台で発表する会であったものを、昨年度から、舞台を降りてみんなで「いっしょに踊りましょう！一緒に太鼓を叩きましょう！」というものにした。これには「自主グループについて知ってもらいたい。身近に感じて興味をもってもらいたい。入ってもらいたい。」という願いがある。土曜日の午後に半日行っている。

委員：土岐町には公民館がなく、まちづくり組織とか青少年育成町民会議が夏祭り等を実施しているが、「公民館があるとないとでは、どう違うか。」ということを日頃から考えていた。公民館がどういう動きをしているか、まちづくりと公民館はどう関わっているかについて具体的に教えてほしい。

総括主事：自分が公民館主事としてここに来た時には、まちづくり組織に全く関わっていなかった。それが、１２年前にまちづくり組織が指定管理を受けたことで初めて、まちづくり組織が何をしているかについて知った。

初めは「まちづくりはまちづくり」「公民館は公民館」で別々に活動していたが、やる内容がかぶるようになった。参加者にとっては、どっちが実施しようと内容に変わりがない。地域が一体となり、社会教育とまちづくりを区別しないでいこうという意識になった。市からは、それは公民館のこと、まちづくりのことと区別をするよう指導を受けたことがあり葛藤があったが、とにかくやってみようと思った。今年度表彰していただき、東京に行って他の公民館の話を聞いてきた。そこでもやはり一体とならないとやっていけないという話が出た。今は、社会教育とまちづくりを一緒にやっていくのがよいという考えで活動している。

釜戸公民館長：別々に活動している時代があり、そのうちに重なる部分が見えてきた。せっかくまちづくり組織が公民館をうけたのだから、全部は一緒にやれないが、「重なる部分は一緒にやりましょう！」とやってきて、よい関係になってきていると思う。

委員：「青龍」は小学生が対象か。

| | |
|---|---|
| | 総括主事：幼児園児・小学生・２０代、そして７０代の２０人弱で活動している。初めは中学生もいたが忙しくなり、ぬけていってしまった。<br>委員：釜戸町全域の希望者を募るのか。<br>総括主事：全域で希望を募る。しかし立ち上げる時はゼロからだし、釜戸には当時、笛も太鼓も何も伝承するものがなかった。「大湫集まろう会」（太鼓の会）に参加させてもらうことから太鼓を始めた。大湫まで上がっていっては練習をした。そのうち、「釜戸でやろう！」ということになった。盆踊りの時に櫓の上で太鼓を叩いたり指導してくださっていたクラブがあったが、それがなくなってしまい、そのあと、盆踊りがまちづくりに移行してきたが、やっても太鼓を叩く人はいない、櫓の周りに誰もいない、踊る人もいないという閑散とした状態になった。そこで、公民館講座で「盆踊り教室」を開き、盆踊りをやりつつ太鼓を進めた。「祭りに釜戸に帰ってきて、子どもたちが櫓の上で太鼓を叩いたらかっこいいな！」「そんなグループを作りたいな！」と思って「青龍」をつくった。まだ櫓の上で叩くところまでは行っていないが、そこを目指して活動している。課題は指導者がいないこと。来年度は美濃源氏太鼓保存会にお願いして進めていこうと考えている。<br>委員：そのように公民館が中心になって人を集め、コーディネートしているというのが、ありがたいことだしうらやましいことだと思う。よい見本となっていってほしい。<br>釜戸公民館長：何かを立ち上げる時、土台となる人がいない。公民館職員がどんどん土台となっていって、いつもその場に出てリーダーをする。そのため負担は増える一方である。公民館職員が、太鼓も三線も体操もやる。町の人たちがリーダーになっていくことが望ましいが、なかなか難しい。<br>委員：町の人がリーダーになっていくということが大事だということか。―よく分かった。<br>委員：夏祭りも公民館が主催しているのか。<br>総括主事：夏祭りはまちづくり組織がやっている。<br>委員：公民館がとても身近だと感じた。参加する側からすると楽しく活動できれば、まちづくりか公民館かという区別は関係ない。公民館があり、そこに行けば楽しめるということがなされていてよいと思う。また「公民館へ行く」が「公民館が行く」へと一文字変わると、こうも内容が変わるのかと思った。地域にある人材と素材を上手に活用しておられることもよいと思った。瑞浪地区について考えてみると、中央公民館は身近なようで身近な感じがしない。町の中なので、公民館以外に機会や場所等があるということかもしれないが。<br>委員：一町一公民館のよさが随分出ている。統合があるのでステップアップは必要と考えるが、今、よい取組がなされていると思った。長い目で見て、積み重ねた成果が出ており、子どもが外へ出て行ってもまた地域に帰ってきて参加することができる。年代によって違う「時間のゆとり」「モチベーション」「健康への関心」、そして「人材の有無」など、実態に即し、背伸びをしないで取り組んだ成果だと思う。<br>委員：地域の方々が公民館に「自分の場」という意識を強くもっておられ、活気がある。和気あいあいとした雰囲気がよい。内容がワクワクする楽しいものが多く、参加するといろいろな年代が繋がり、そのことが地域を盛り上げていると感じた。<br>委員：地元の委員として、まず今日発表された内容を釜戸町民全員に知ってもらいたい。自分自身も文部科学省の表彰を受けられたことを知っていたが詳しくは知らなかった。なぜ知ってもらいたいかというと、写真等を見ると分かるように、参加者が子どもたちと多くの高齢者であり、中間層がいない。釜戸町の人口が年々５０人ほ |

| | |
|---|---|
| | ど減り、この調子だと１０年後には５００人減る。将来的には釜戸小学校もなくなってしまうのではないかと心配している。活性化とまでは言わないが、維持したい。そういったとき、人々を繋ぐもとになるのが釜戸公民館であると思う。今やっているいろいろなことを継続していくことも大事だが、若者たち２０代～５０代に参加してもらえることができるとよい。釜戸町ってどんな町かと問えば、自然がいっぱいある、交通の便がよい、高校は西も東も選べる等が出るが、それでも人口は減っている。減らないためには文化の交流が必要だと思う。子ども太鼓が日吉に行って交流したことが非常によかったという話があったように、釜戸町だけで何かをするのは限界があるので、５つの町が文化を交流するなどするとよいと思う。それを中心になって行うのが公民館。今日の発表を町民会議で発表してもらいたい。<br>委員：地域の交流に関わって言うと、今度北中ができて、５つの町の子どもたちが全部一緒になる。釜戸の太鼓が日吉に行ったという話があったが、そのように交流によって親しい関係をつくりたい。５つの町の中学生がひとまとまりになって地域の行事にボランティアで参加するとか、そういう地域が一つになる動きを公民館にやってもらえたら嬉しいと、地区公民館のない土岐町としては希望する。<br>委員：交流と言えば、各公民館でさまざまな講座が行われているが、それも地域を越え、公民館だよりを回す等して、参加者が集まるようにしてはどうかと思う。２月に日吉公民館で「柿の木の剪定講座」を行うが既に大湫や明世からの申し込みがある。そんなふうに町内に限らずに参加してもらい交流していくことも進めたいと考えている。<br>釜戸小校長：地域の学校にいてすごく感じるのだが、―先程公民館の方からまちづくり組織と公民館とを別々に考える時代があったと聞いたが―、そういう時代を経た今、うまく融合し、まちづくりの中に学校が入っているということが大変ありがたい。学校から地域の方々にヘルプを出しやすくなった。具体的には後で「釜戸小学校から」の中で述べる。<br>委員：公民館活動を通して地域の方の意識の変化はどのようか。成果と課題が見えてくる評価、たとえば意識調査等を行っているか。<br>総括主事：講座後や事業後にアンケートを取るようにしている。辛口の答えもあり参考になる。集計すると「よかった。」「満足。」という回答が増えてきてはいるが、それは参加した人だけのアンケートである。１０代から５０代の人たちに来てもらいたい、どうしたら来てもらえるかと、開催する曜日や時間帯等を工夫しているが、なかなか増えない。そういう中間層の意識が捉えられないでいる。子ども向けの講座や事業をすると親が来てくれるということは確かである。<br>委員：必然性がないと若い人は来ない。例えばスキー講座をやると父母がどうしても来なくては成り立たないから来る。しかし、父母なしで済むものを企画すると来ない。忙しいということだろうと思う。<br>司会：先程、人づくり、生きがいづくり、まちづくりと言われた。これらを行って生涯学習を推進すると言われたと思う。生涯学習には学習・奉仕・スポーツという要素があるが、これまで奉仕（人のために）という部分が弱かった。自分が学びたい、自分が活動したいと、「自分が」に重点があった。それを、学習をした後に、自主活動につなげ、「人のために」とボランティア的に関わっていく力をつけることを具現されていて素晴らしいと思った。中学生がボランティアをした後「やってよかった。」と言っていると言われた。そういう気持ちをもたせてみえる。そういう成功体験を積み上げてこそ地域への愛着が生まれる。だから、外へ出て行っても地域の |

| | |
|---|---|
| | 行事には帰ってくるという動きが出てきている。情報提供については、ネット配信があるが、広報誌等の紙媒体を大事にしたい。ネットでは見たい情報しか見ないが紙媒体は他の情報も目に入る。また高齢者には紙媒体が有難いということもある。<br>公民館は「学習の場の提供」「学習の機会の提供」をするところである。そこに指導者が必要となる。この指導者の確保が難しい。公民館独自では難しい。私たち社会教育委員は、今、地域・家庭・学校の協働について模索している。指導者には、例えば、教員のＯＢ、会社のＯＢ、農業や商業の現役、等、広い範囲で拾っていくお手伝いができないか考えなくてはと思っている。公民館と社会教育委員が協働できたらと思う。また、夢づくり地域交付金の項目を見てみるとステップアップ事業として、青少年育成、子育て支援、高齢者福祉、環境整備、男女共同参画、歴史文化の保存伝承等が事業として挙げられている。これらは、釜戸公民館が既にやっておられるものばかりである。活用されるとよいと思う。<br>私たち社会教育委員が、本日たくさん勉強させていただけた。お忙しい中、ここで発表いただけたことに深く感謝申し上げる。<br>（２）釜戸小学校の教育構想と釜戸公民館および地域との関わり<br>①吉村校長より<br>＜校長作成「学校経営構想図」と教頭作成「『地域とともにある学校』を目指して」をもとに説明＞<br>②感想および質疑応答〔司会：有賀秀雄代表〕<br>司会：前回の委員会で、各委員ができる範囲で「学校が地域に望んでいること。」を訪問や聞き取りで情報を得て来るということになっていたが、何か得られたか。<br>委員：釜戸小に行くに当たって「地域の人材をいかに活用するか。人材バンクみたいなものがあるとよいのでは。」という考えをもって伺う予定であった。本日、校長先生が話された中で、それができつつあることが分かった。<br>委員：日吉中では閉校に向かって記念品包みの作業をやりながら聞き取りを行った。答えられたのは、環境整備、学習支援に来てもらえたら有難いということであった。環境整備については、どんどん生える裏の草を刈りたいけど職員が少ない中でなかなかできない。助けてもらえたら助かる。学習支援については、何も黒板を使って教えるということではなくて、子どもが頑張っている時に「頑張っているね！」、わからないと言っている時に、「分からないの？」「どうすればいいと思う？」「誰に聞いたらいいの？」と声をかけてくれるだけでありがたい。また、小学校にもプログラミング教育が入ってきたが、地域に指導者はいないかと尋ねられた。<br>質問であるが、児童が１１６名と言われたが、職員数は何人か。<br>校長：校長・教頭・教務を除いて、９名である。<br>委員：そうなると職員一人あたりの負担は大きいか。<br>校長：大きな学校も小さな学校も、やらなければいけないことは同じであるため、一人の守備範囲は広くなる。一方で、大きい学校は大きい学校で大変なことはある。<br>委員：陶地区では、子どもの数が減り、グランドは走り回られる度合いが減り、草が凄い勢いで生えるため、環境整備への協力を強く希望するということであった。<br>発表の中で、地域の人材活用として「ミシンの授業に、更生保護女性の会の方々に入ってもらった。」とあったが、これは本当に欲しい支援であると思う。家庭科でミシンを使う時、マンツーマンであっちからもこっちからも呼ばれる。担任１人では応じ切れないのが悩みであった。地域人材をここで活用するというアイディアがすごい。 |

| | |
|---|---|
| | さらにと思うのは、授業支援に入ってもらったら、そこで終わるのではなく、その後につながることである。例えば、お互いに地区名と名前のついた「名札」を付けて、「なに、近所やないの～」「あれ、○○さんの孫かね。」ということになれば、日常的に地域と繋がることができる。その場だけで終わらず、そこから繋がりが始まる一工夫があるとよいと思う。（聞き取った内容に戻るが）理科の実験準備の支援や小テストの採点の支援もありがたいということであった。理科の実験準備は本当に大変で、以前はそのための支援員が配置されたこともあったが、今はない。小テストの採点については、実施したその場でしてもらえれば、子どもにすぐ返せる。担任は授業内容に取りかかることができる。さらに「３番と４番に不正解が多かった。」等の情報を早く得られれば、より早く重点的な指導をすることができる。<br>委員：資料５ページの地域へ依頼し「地域の方と学習する」というのがとてもよいと思う。地域の防災士に来てもらって通学路の危険個所を確かめる学習を５年生で行い、翌年は６年生はリーダーになっていくという意識づけを大事にされていることも素晴らしいと思う。３年生の算数「そろばん」の支援に地域の方を招くというのもユニークである。自分は高校に勤めていたが高校生になってからでなく、小学校の３年生ぐらいから地域と近い関係をつくっておくのが重要だと思う。総じて地域とのつながりをとても大事にされていることがわかった。少人数の学校だということを活かしておられることが素晴らしいと思った。<br>委員：やはり５ページの表がとても大事だと思う。公民館も講師探しには苦労する。学校はもっと大変なのではないかと思うが、このような表をつくられたことが画期的で、大変参考になる。<br>委員：地域連携にもっと重点的に取り組もうということで「地域で主体的に動くことのできる人を育てる。」という考えの下、様々な手を打っておられる。地域の方にやってもらうだけでなく、ボランティアをして発信する等の考え方も素晴らしいと思った。そういうことが無理なく繋がり、持続することが重要で、活動を立ち上げても続かなければ意味がない。人が代わったら立ち消えてしまうのでは何にもならない。そこで、地域連携の要となるコーディネーターが要る。それは誰かというと、釜戸では集落支援員さんが活躍しておられるとのこと。他の地域でも、まちづくりの組織はあるので、集落支援員が担うということになるかもしれないが、私たち社会教育委員の仕事の中にもコーディネートというものがある。社会教育委員を活用するのも一つの方法かと思う。<br>委員：私は、今、土岐小学校の学校農園「ひろがり畑」をおこしに行って野菜作りの基盤整備をしている。また、３年生の地域学習の講師をしている。これらは、全て、教頭や担任からの連絡で動いている。これは個人的な動きである。「前、校長をやっていた○○が校区にいるから頼んでみよう。」というようなことで動きをつくるしかない状態である。今、委員が言われたように、コーディネーターという存在が皆無なために、こうなっている。これが、組織的な動きで行われるようになるとよいと考える。自分たちの組織や、まちづくり組織の中で、組織をつくっていくことが大事なのではないかと思う。<br>司会：校長先生から教わりたいのは、集落支援員さんとのつながりをどのようにつくって来られたかということである。今すぐにということではなく、おいおい教えていただきたい。他の委員さん方が話されたように、コーディネーターという存在があると動きやすいし回りやすい。コーディネーターをどう確立していくかが、委員としての一つ |

| | |
|---|---|
| | の役目であり、また、組織化していくという流れ、これを考えていくことも必要だと思った。「どんな繋がり方ができるのか。」「何が求められているのか。」「では、どうしていくのか。」を考えていきたいと思う。そういう意味で、吉村校長先生から、大変よいご提案をいただいた。公民館と学校がとてもよい関係で手を組んでおられる、この実践を是非広めていただきたい。<br>「開かれた教育課程」と言われている。聞き取りをすると、地域の人が学校に入っていくことを望んでおられる学校がある。一方で、地域の人が学校に入った場合の問題点もある。その辺のところを詰めていかないと、よい方向を出すことができない。今後も聞き取りを続け、それを交流して考え合っていきたい。話し合いの中で社会教育委員がコーディネーターになるのもよいという考えも出た。しかし、全員がならなければいけないということではない。そこは、分けて考えなければならないと思う。<br><br>**４　連絡事項**<br>（１）次回の定例会　３月１９日（火）１４：００～<br>瑞浪市総合文化センター　第２研修室にて<br>（２）大会冊子及び情報誌の配付<br>・東海北陸社会教育研究大会のまとめの冊子<br>・社教情報<br>・社教連会報<br>・東濃社会教育だより<br><br>**５　閉会の言葉（小栗正敏副代表より）** |